

目次

一、戦後国家の基本

- 二、国際独占の発達
(本号)
- 三、市場再分割の今
日和見主義

四、現代帝国主義と 世界再分割の今 日和見主義

「発展は独占に向つて進んでおり、從つて一個の世界的独占に向つて、一個の世界トラストに向つて進んでいる。」

レーニンは、この命題について争う余地なく正しいとしつつも、帝国主義列強が世界のありとあらゆる地域で競を鳴え激しく相争つてゐる。(○世紀初頭の現実の中には、「死んだ抽象」であり、それが帝国主義各國の金融資本が、それをせよよつとする、もつとも反動的な目的に役立つものである」と批判した。

そもそも帝国主義各國の金融資本が、その現存する諸矛盾の根底から人々の注意をそらせよよつとする、もつとも反動的な目的に役立つものである」と評してゐる。

西側世界における国際独占の発達は、

「發展は独占に向つて進んでおり、從つて一個の世界的独占に向つて、一個の世界トラストに向つて進んでいる。」

レーニンは、この命題について争う余地なく正しいとしつつも、帝国主義列強が世界のありとあらゆる地域で競を鳴え激しく相争つてゐる。(○世紀初頭の現実の中には、「死んだ抽象」であり、それが帝国主義各國の金融資本が、その現存する諸矛盾の根底から人々の注意をそらせよよつとする、もつとも反動的な目的に役立つものである」と批判した。

そもそも帝国主義各國の金融資本が、その現存する諸矛盾の根底から人々の注意をそらせよよつとする、もつとも反動的な目的に役立つものである」と評してゐる。

西側世界における国際独占の発達は、

「發展は独占に向つて進んでおり、從つて一個の世界的独占に向つて、一個の世界トラストに向つて進んでいる。」

レーニンは、この命題について争う余地なく正しいとしつつつも、帝国主義列強が世界のありとあらゆる地域で競を鳴え激しく相争つてゐる。(○世紀初頭の現実の中には、「死んだ抽象」であり、それが帝国主義各國の金融資本が、その現存する諸矛盾の根底から人々の注意をそらせよよつとする、もつとも反動的な目的に役立つものである」と批判した。

そもそも帝国主義各國の金融資本が、その現存する諸矛盾の根底から人々の注意をそらせよよつとする、もつとも反動的な目的に役立つものである」と評してゐる。

西側世界における国際独占の発達は、

現代世界と帝国主義

二章 国際独占の発達

深彦和

アメリカ金融資本集團

帝国主義が、他の帝國主義をも一定支配。年代初めに至る期間、米金融資本は、そ

の資本輸出的主要な対象を第三世界の石

に移し、この方面に無視しえぬ地帯を確

立、全般的に多国籍企業(国際独占)へ

と飛躍を果した。この時期、日・欧の金

融資本は、資本の集中・合併を促進し、

資本輸出を開始し、徐々に増大させる。

外國資本の抵抗を打ち砕くか、労働者

たのが、七七年には、これを $\frac{1}{2}$ ・八

・九の間に、その限りで可能となつた。

被抑止民族の反抗の鎮圧などで、諸集

団の結束が必要となつた時に、利害を一

致させ結束する為の一つの条件としてあ

る。またそれは、東部三集團の抗争に

おける古從連衡の歴史的確

に引き上げている。チエースの場合は、

がこれまで同調しないできたのは、政府

の背後に、米国内における

海外収益だった。最近の米国内における

「多国籍企業」(国際独占)化する。他

方、米帝は自帝に対し、織維・カラーテ

レビ・鉄鋼・自動車の分野で増大する対

資本に対する抗争、かつ誘導されて、急速に

輸出の自主規制・資本輸出を促し、か

つ、農産物・先端産業・金融の分野での

市場開放(支配)へ圧力を強めた。

第四期は八〇年代初頭以降である。輸

界再分割により出したり連社帝の脅威を

テコにして、西側列強は自己の範囲に縛りつけ国際反革命体制を形成した。

国際独占は、この国際革命体制を条件に、はじめて大量的に資本輸出し、国

内に、はじめて大々的に発達し、金融資本の一般的形態となる。すなわち、今日

金融資本は、第三世界のみならず、帝国

主義国へ相互に大量的に資本輸出し、國

内での生産を国際的生産の一構成部分と見

なし、国際的規模で系統的に搾取・略奪するシステムを発達させていた。もちろん

米銀の国際トラスト化

これら東部三集団をはじめとする米銀は、多国籍企業の資本調達が海外へ移る

ト拉斯化してくると、いくつもの国の

独立銀行による国際借款機関が形成

する。このように、銀行の国際形態に他ならない。一九七〇年末までに

FNCB集団は、FNCB、グレイイト、

ラルフ・フーズ(食品)、コカ・コーラ(飲料)、

アーヴィング(石油)、マクドナルド(航空機)、

ケネンタル(オイル)、ダウ・ケミカル(石油・化學)、U.S.スチール(鉄鋼)、

ペプシコ(飲料)、ケネコット、インコ(アルミニウム)、

ティ・モルガン・スタンレーなどの金融機関を中核に、以下の一連の独占的大企業を傘下にかかえている。GE、IBM、

七七年一月に発表した「多国籍企業報告書」は、アメリカの「多国籍企業銀行」

が、一九七一年末現在、西側世界の民間

金融資本集団は、株式所有の媒介だけ

で打ち固められている。

以下は、各集団の構成である。

モルガン集団は、モルガン・ギャラン

アーヴィング(石油)、ゼネラル・ダイナ

ミクス(戦闘機・ミサイル)、GM(自動車)、ブロクターハンブル・コングル・モルガノン・ギャランティ・トラス

トを中核商業銀行とするモルガノン集団、

これは、一九七六年に当る一八九六億ドルを支配する。それは、七一年末に当る一九七七年一月に発表した「多国籍企業報告書」は、アメリカの「多国籍企業銀行」

が、一九七一年末現在、西側世界の民間

金融資本集団は、株式所有の媒介だけ

で打ち固められている。

以下は、各集団の構成である。

モルガン集団は、モルガン・ギャラン

アーヴィング(石油)、ゼネラル・ダイナ

ミクス(戦闘機・ミサイル)、GM(自動車)、ブロクターハンブル・コングル・モルガノン・ギャランティ・トラス

トを中核商業銀行とするモルガノン集団、

これは、一九七六年に当る一八九六億ドルを支配する。それは、七一年末に当る一九七七年一月に発表した「多国籍企業報告書」は、アメリカの「多国籍企業銀行」

が、一九七一年末現在、西側世界の民間

金融資本集団は、株式所有の媒介だけ

で打ち固められている。

以下は、各集団の構成である。

モルガン集団は、モルガン・ギャラン

アーヴィング(石油)、ゼネラル・ダイナ

ミクス(戦闘機・ミサイル)、GM(自動車)、ブロクターハンブル・コングル・モルガノン・ギャランティ・トラス

トを中核商業銀行とするモルガノン集団、

これは、一九七六年に当る一八九六億ドルを支配する。それは、七一年末に当る一九七七年一月に発表した「多国籍企業報告書」は、アメリカの「多国籍企業銀行」

が、一九七一年末現在、西側世界の民間

金融資本集団は、株式所有の媒介だけ

で打ち固められている。

以下は、各集団の構成である。

モルガン集団は、モルガン・ギャラン

アーヴィング(石油)、ゼネラル・ダイナ

ミクス(戦闘機・ミサイル)、GM(自動車)、ブロクターハンブル・コングル・モルガノン・ギャランティ・トラス

トを中核商業銀行とするモルガノン集団、

これは、一九七六年に当る一八九六億ドルを支配する。それは、七一年末に当る一九七七年一月に発表した「多国籍企業報告書」は、アメリカの「多国籍企業銀行」

が、一九七一年末現在、西側世界の民間

金融資本集団は、株式所有の媒介だけ

で打ち固められている。

以下は、各集団の構成である。

モルガン集団は、モルגן・ギャラン

アーヴィング(石油)、ゼネラル・ダイナ

ミクス(戦闘機・ミサイル)、GM(自動車)、ブロクターハンブル・コングル・モルガノン・ギャランティ・トラス

トを中核商業銀行とするモルガノン集団、

これは、一九七六年に当る一八九六億ドルを支配する。それは、七一年末に当る一九七七年一月に発表した「多国籍企業報告書」は、アメリカの「多国籍企業銀行」

が、一九七一年末現在、西側世界の民間

金融資本集団は、株式所有の媒介だけ

で打ち固められている。

外部の関連会社・下請会社の資産の流れを円滑にすること、そして、ニューヨーク・ロンドン・東京などの金融中心地の動きを見て、資金調達なり通貨投機の機会をとらえること、なまである。

大資本は、このように自己の内に国際的な通貨管理システムを持つようになる。政府による為替管理や直接投資規制も、米銀の国際独占への発達は、それを中核として金融資本集團を形成している産業的巨人達の「多国籍企業」化によって推進された。そして、産業的巨人達の権力に支えられて、米銀の開拓が確立されたのである。我々は、戦後世界における米帝の特殊な地位の経済的基礎について更に産業的領域にまで踏み込んで見てゆくこととする。

(表1) アメリカの地域別・業種別民間直接投資残高 (単位・億ドル・カッコ内%)		
	1960年末	1970年末
全地域別総計	328(100)	782(100)
ヨーロッパ	67(20.4)	245(31.3)
カナダ	112(34.2)	228(29.2)
ラテン・アメリカ	93(28.3)	148(18.8)
その他の	56(17.1)	161(20.7)
1961年末	1970年末	
全業種合計	347(100)	782(100)
鉱山石油	31(8.9)	62(7.8)
石鹼	122(35.0)	217(27.9)
その他の	119(34.4)	323(41.3)
	75(21.7)	180(23.0)

(注) 「世界経済と多国籍企業」(野村昭夫・東洋経済)より

(表2) 世界の大企業の生産額の海外依存度—1978年
(単位・億ドル・%)

国名	企業数	販売額(A)	在外生産額(B)	海外依存度B/A%
アメリカ	213	9,792	3,199	32.7
日本	53	2,079	173	8.3
イギリス	51	1,610	726	45.1
西独	30	1,775	437	24.6
フランス	19	990	348	35.2

(注) 各国の企業数は、世界の大企業429社中にランクされている数、「日本の巨大企業」(中村孝俊・岩波新書)により。

米大企業の国際トラスト化

米銀の国際独占への発達は、それを中核として金融資本集團を形成している産業的巨人達の「多国籍企業」化によって推進された。そして、産業的巨人達の権力に支えられて、米銀の開拓が確立されたのである。我々は、戦後世界における米帝の特殊な地位の経済的基礎について更に産業的領域にまで踏み込んで見てゆくこととする。

第二次帝國主義大戦の直後の十年間、民間資本輸出の領域は米帝の独壇場だった。英國の民間長期資本輸出が再開されたのは一九五一年で、フランスは一九五四年になってからである。

一九四六年から五五年までの十年間の民間对外直接投資の伸び率を見ると、総額が二・七倍のところ、石油が四・二倍鉱業が一・七倍、製造業が一・六倍、公益事業が一・二倍だった。この米国資本の海外石油開発事業への殺到は一つの重大な結果をもたらした。即ち、米巨匠石油資本が、中東においてロイヤル・ダッチ・シェル(英・蘭)およびブリティッシュ・ペトロリアム(英)の開拓権を覆し、西側世界の三天石油原産地である米国、ペネエラ、中東の全てを制覇したということである。メジャー(国際石油独占)七社の中東原油生産シェアを比較すると、一九四六年には、シェルとB

Pの合計六五%に対し、米五社(ニューカー・モービル・ソーカル・カル・シャーリー・モービル・ソーカル・カル・テキサコ)は合計で三〇・九%にすぎなかつた。しかし、一九五六年には、前者合計が三四・七%に脱落し、米五社は五八%になっていた。

この米五大石油資本と英・蘭の天石油資本の中東石油支配における力関係の逆転には、アメリカ国家が重要な役割を果した。その最も劇的なものが一九五三年のイランにおける政変である。それまで米国石油資本はイランからしめ出され

ており、そこは英帝の圧倒的影響下におかれていった。この国の石油は、アングロ・イラン(後のBP)が独占し、第一次大戦中には、その石油利権を防護する目的で、英軍がこの国を占領したという経緯があった。しかし、戦後のこの国

において反英民族運動の勃興とモサデク半を石油で求める時代の到来の中で、測定の間に最も強固である」(一九五四年の「帝国主義レーニン」)。米金融資本にとって、石油支配は、エネルギー資源の大

きな国は、中東の地から完全に消え去った。しかし、一九五六年には、全

世界の原油確実埋蔵量の九%、産油高の八七%、精油能力の七三%、タンカー輸送能力の九%、製品マーケティングの七一%を支配していた。従って、この

「独占は、いさゝいの原料資源が一手に握られる場合に最も強固である」(一九五四年の「帝国主義レーニン」)。米金融資本にとって、石油支配は、単に資源が石炭半を石油で警戒し反撃が高まつた。

他方、製造業関係の米国からの海外民間直接投資も、この時期決して少なかつた。どうして米石油独占がイランに石油権利を確保するようになったのか

米カライのペーリー政権を樹立したの政権による石油業国有化に対し英帝は有効に対処しきれ、かわって米帝が、CIAの工作によりこの政権を駆逐し、親

米カライのペーリー政権を駆逐し、親米の海外石油開発事業への殺到は一つの重大な結果をもたらした。即ち、米巨匠石油資本が、中東においてロイヤル・ダ

ッヂ・シェル(英・蘭)およびブリティッシュ・ペトロリアム(英)の開拓権を覆し、西側世界の三天石油原産地である米国、ペネエラ、中東の全てを制覇したということである。米石油独占は、ただちに英・蘭たということである。

一九四六年には、シエルとB五社契約を結び、この国において石油利

能をとらえること、なまである。が邪魔になる。そして実際に、短期流動資本の大部分がアメリカ金融資本團の手中にあった為、西欧や日本の政府が動きを見て、資金調達なり通貨投機の機会をとらえること、なまである。

米大企業の国際トラスト化は、このように自己の内に自己の内に国際的な通貨管理システムを持つようになる。政府による為替管理や直接投資規制

を保持していく。この米独占資本は、

西側世界市場において、米独占資本は、

集中したことである。一九七〇年代末時点でも、航空機・コンピューターの

相場制を維持しようとしても、それは不可能であった。

西欧・日本の独占資本の場合

西欧が政治的安定と経済的復興を果たすことは、それが不可能である。

西欧が政治的安定と絏済的復興を果たすことは、それが不可能である。

西欧が政治的安定と絏済的復興を果

